

平成 25 年産 紀南の梅産地情報

2013/7/16

「今年産の生育概況」

1. 今年の南高の開花は、適度な降雨と高温によって、開花始めから一気に進み、満開は平年に比べ 1 週間程度早い 2 月 6～7 日となった。

満開後は気温が下がり、受粉状態が心配されたが、収穫前の定点着果数では前年に比べ多く平年並み、在来系の着果数は前年・平年共に多かった。

出荷は、小梅は 5 月 16 日から、古城は 5 月 19 日、南高は 5 月 28 日から始まり、5 月は降雨が少なく高温で推移したため、実肥りは悪かったものの生育が早まり、前倒しで日々の入荷量は多くなった。

また、梅雨入り前半は降雨は少なかったが、6 月中旬以降は降雨が多く加工用の出荷や遅場地域では実肥りもよく収穫量は多くなった。

今年は、一部の地域では生育初期の風傷や降雹被害があったが、全般的には病害虫の発生は少なく果実品質は良い年となった。

2. 生産量は、各品種とも前年・平年に比べ多くなり、過去最高となった。

7/16 日時点（生産見込量：ト）

品 種	25 年産	24 年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	1,147	639	934	180%	123%
古 城	1,046	419	951	249%	110%
南 高	27,439	16,532	21,943	166%	125%
在来系	725	503	685	144%	106%

3. J A 紀南の安全・安心対策は、11 年目に入り全出荷者の生産履歴の回収と安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析自主検査、適正農業規範(G A P) の点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年の予想を上回る気象変動が頻発する中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることは勿論のこと、南高梅に偏りすぎた経営から、梅に軸足を置いた複合経営への転換を積極的に進めることが重要課題となった。